

わ く わ く

4月号



本 だ な

1 2 3 年



E 『ルナのたまごさがし』

たなか鮎子／作・絵 フレーベル館

イースターとは、たまごにきれいな色でさがりつけをして、春のおとずれをいわうおまつりです。引っこしてきたばかりのルナは、イースターのたまごさがしをするうちに、新しいクラスの人となかよくなります。

えほん

E 『さくらがさくと』

とうごうなりさ／さく 福音館書店

さくらのつぼみがほころんで、花がさきました。鳥たちがみつをすいに来て、歩く人たちも足をとめてさくらをながめます。夜にはぼんぼりがともって、屋台が立ち、みんながお花見を楽しみます。

えほん



K933 『デイビッド・マックチャーバーと29ひきの犬』

マーガレット・ホルト／ぶん ウォルター・ロレイン／え

小宮由／やく 大日本図書

おつかいをたのまれたデイビッド。買い物ですませて帰るとちゅう、かみぶくろがやぶけていることに気がつきます。

落とした肉のにおいをかぎつけて犬が集まり、それを見てパレードとかんちがいた子どもや大人までついできました。

ものがたり

E 『いろがみえるのはどうして?』 キャサリン・バー／作

ユリヤ・グウィリム／絵 千葉茂樹／訳 小学館

赤、青、緑、わたしたちのまわりには、たくさんの色があふれています。人間以外の生き物には、どのように見えているのでしょうか。たとえば、カタツムリは白黒の世界、犬は赤やあかるい緑は見えません。色が見えるしくみなど、色のいろいろなひみつがわかります。

ちしきのほん



としょかんのまどぐちには、くみだてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね! <編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200

わ く わ く

4月号

本 だ な

4 5 6 年



物語

K913 『びっくりしゃっくりトイレそうじ^{だいさくせん}大作戦』

野村一秋／作 羽尻利門／絵 佼成出版社

由治^{ゆうじ}はいつもひとりで学校のトイレそうじをしています。同じ班^{はん}の人はさぼってばかり。

クラスになじめないまま、校舎^{こうしゃ}のうらで昼休みをすごしていると、校務員^{こうむいん}の林さんに会いました。由治は、林さんがよごれたベンキをあっというまにピカピカにするのを見て、いいことを思いつきました。

K913 『イナバさん！』

物語

野見山響子／作 理論社

うっかり者のイナバさんは、いつも忘れ物^{わす}をしてばかり。あるとき、電車の中に家のカギを忘れたことに気がつき、終点の駅まで取りに行くことにしました。

ところが、あわてて乗ったのは〈遺失物専用列車^{いしつぷせんよう}〉です。イナバさんは他の忘れ物といっしょに、ベルトコンベアで保管庫^{ほかんこ}に運ばれてしまいました。



ちしきの本

K219 『琉球^{りゅうきゅう}という国があった』

上里隆史／文 富山義則／写真 一ノ関圭／絵 福音館書店

沖縄県^{おきなわ}や鹿児島県^{かごしま}の奄美諸島^{あまみしよとう}は、今から140年ほど前まで、琉球王国という一つの国でした。琉球はアジアの国々との貿易^{ぼうえき}で栄え、独特^{さか}の文化^{どくとく}がありました。2000年に世界文化遺産^{いさん}に登録^{とう}された首里城^{しゅりじょう}は、日本のお城とはずいぶんちがいます。

美しい写真やイラストで、琉球の歴史^{れきし}をふりかえります。

首里城は2019年10月の火災^{かさい}で燃えました。多くの人がさいげん^{さいげん}ねが^{ねが}再建^{さいけん}を願っています。

図書館のまどぐちには、くみたとると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200